

イベント

ギャラリーツアー

内容 本展企画者（art space co-jinスタッフ）による作品解説。

日程 2026年2月4日〔水〕15:00-16:00
2月7日〔土〕15:00-16:00

予約 不要

集合場所 市民交流プラザふくちやま 3F ギャラリースペース

関連展覧会

「Co-jin Collection -コジコレ- No.9 心象と風景」

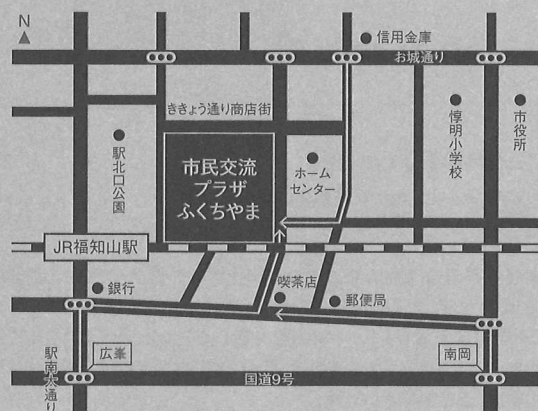
出品作家 井上順子、DAIZO、野口博司

会期 2026年1月7日〔水〕－4月5日〔日〕※月・火曜休廊

時間 10:00-18:00

会場 art space co-jin

アクセス



市民交流プラザふくちやま

〒620-0045 京都府福知山市駅前町400番地

- ・福知山駅から駅北口を出て徒歩1分
- ・専用駐車場（有料）施設東側にございます。（車椅子専用駐車場あり）
（駐車場ゲートは南側が入口専用、北側が出口専用となっておりますのでご注意ください。※右折入場はご注意ください。）

お問い合わせ

art space co-jin

（きょうと障害者文化芸術推進機構 事務局）

〒602-0853 京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール 1階
Tel & Fax 050-1110-7655 Mail info@co-jin.jp WEB <https://co-jin.jp/>

私たちは「ながさきピース文化祭2025」（2025.9.14-11.30）を応援し、障害のある方々の芸術文化活動を盛り上げます。



co-jin HP



展覧会ページ

What are you doing now?

入場無料

2026
2/4 水
↓
8日

出展者 Artists

大江正彦・OE Masahiko
大八木恒之・OYAGI Tsuneyuki
木村康一・KIMURA Koichi
清水貴久・SHIMIZU Takahisa
富塚純光・TOMIZUKA Yoshimitsu
長嶋柊・NAGASHIMA Tou
東本憲子・HIGASHIMOTO Noriko
ほんままい・HONMA Mai
森田博康・MORITA Hiroyasu

いま、なにしてる？

2025年度

会場・市民交流プラザふくちやま 3階
市民交流スペース+ギャラリースペース

住所・〒620-0045 京都府福知山市駅前町400番地
時間・10:00－18:00（※2月4日は13時から、2月8日は17時まで）

主催・きょうと障害者文化芸術推進機構 後援・福知山市
協力・アトリエひこ、社会福祉法人 修光学園、
社会福祉法人かりがね福祉会、社会福祉法人一羊会、
長嶋柊作品展を応援する会、社会福祉法人ノーマライゼーション協会、
まつさかチャレンジドブレイス希望の園、社会福祉法人からし会（順不同）
会場構成・tamari architects 広報デザイン・タナカタツヤ

The Symbiosis Art Festival 2025
Traveling Exhibition
巡回展

共生の芸術祭

時計の針はいつも「今」を指し、その前後には過去と未来があります。時計の針が、ぐるりと回って戻ってきたとしても、そこに1つとして同じ「今」はなく、私たちは常に新しい「今」と出会い続けています。

本展覧会で紹介する9名の作家もあなたも私も、「今」と出会い、そこで何かをしています。例えば、今あなたはこの文章を読んでいて、私はこの文章を書いています。大江正彦は黄色の絵の具をパレットにたっぷりを出しているところかもしれません。大八木恒之は日当たりの良い自室でオイルパステルを塗り重ねているかもしれないし、ほんままいは移動中のバスから鳥を眺めて次回作の構想を練っているかもしれません。森田博康は服を破り明日の準備をしているかもしれないし、東本憲子はプチプチに色鮮やかな点を落とし、木村康一は新たな妖怪を生み出すために粘土を握っているかもしれません。長嶋柊は丁寧な日記を描き終え、富塚純光は新しい物語を語り始め、清水貴久は人知れず手描きの値札シールをこっそりとなにかに貼り付けているかもしれません。

こうして想像を膨らませていくと、世界中すべての人が「今」と出会い続けているということに辿りつきます。その想像は途方もないものではありませんが、小さな想いを育んでいくこと、それは同じ世界を共に生きていくことへの希望のようなものではないかと考えています。



大江正彦・OE Masahiko

所属・アトリエひこ 1965年生まれ。大阪府在住。

生まれつきの心臓疾患のため、じっとしていることの多かった大江は、幼い頃より絵を描くことが生活の一部となっていた。支援学校の卒業後は家にいる日々が続き、26歳の時、亀岡市のみずのき寮絵画教室へ母と共に通いはじめた。のちに母は、好きな絵を思い切り描いてほしい、同じような境遇の仲間がほしいと願い、大江が29歳の時に、自宅前の長屋でアトリエひこを開設した。大江は60歳の現在もアトリエで自宅で、毎日描き続けている。

《黄色》2023年・アクリル、キャンバス

大八木恒之・OYAGI Tsuneyuki

所属・社会福祉法人修光学園 飛鳥井ワークセンター 1976年生まれ。京都府在住。

『遠山の金さん』を描いてほしいと母にねだったところ、自分で描いてみたら？と勧められ、絵を描き始める。自身で描く楽しさを発見して以来、日々自宅で制作を続け、その作品は1,000点を超える。オイルパステルを用い、整然と並んだ食料品や、古いテレビ番組の一場面のほか、水平と垂直を組み合わせた色面のみで構成される抽象的な作品も手がける。



《みかんと味噌》制作年不明・オイルパステル、紙

木村康一・KIMURA Koichi

所属・社会福祉法人修光学園 1976年生まれ。京都府在住。

ユーモラスな表情のカップや猿、あるいは、手足や目鼻など身体のパーツが自在に組み合わされた生き物などオリジナルの「妖怪」を制作している。小学生の頃に水木しげるの影響で妖怪が好きになり、模写を始め、次第にオリジナルのものを描くようになった。平日に通う施設では陶芸の立体物を作り、自宅では日々B5サイズの紙にドローイングを描いている。

《タイトル不明》制作年不明・陶土



清水貴久・SHIMIZU Takahisa

所属・社会福祉法人かりがね福祉会 風の工房 1985年生まれ。長野県在住。

自身がコンビニエンスストアで購入したペットボトルやお菓子の箱などに、手描きの値札シールを貼っている。以前は、値札シールの貼られたそれらは清水自身の手によってきちんと分別され捨てられていたが、7年前のある時その行為に気づいたスタッフによりこっそりと保管されるようになった。現在では、値札の貼られたそれらは捨てられることはなくなり、清水の自宅にて保管されている。

《タイトル不明》撮影：風の工房



※2月4日は13時から、2月8日は17時まで



富塚純光・TOMIZUKA Yoshimitsu

所属・社会福祉法人一羊会 あとりえずすかけ 1958年生まれ。兵庫県在住。

小さな筆に墨汁をたっぷりとふくませて、文字を描く。その文字は読めない。頭の中にある空想の世界を訥々と語りながら、あっという間に物語は仕上がっていく。以前は、自身の記憶に忠実に物語を紡ぎ出していた富塚だが、現在では登場する団体名や人物は彼の記憶を基に実在はするものの、物語の内容はほとんどフィクションだ。斬新でおかしの深いその物語は、周囲の人を驚かせ喜ばせている。

《馬鹿受け青春丸かじり英雄(ヒーロー)物語1》
2022年・墨、パステル、水彩紙

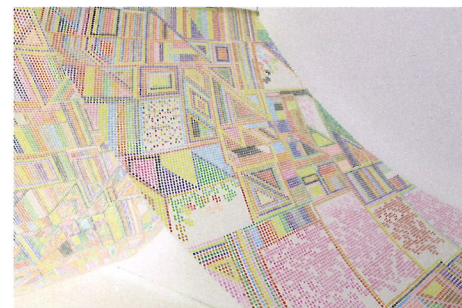


長嶋柊・NAGASHIMA Tou

1998年生まれ。京都府在住。

2002年11月18日、幼稚園年少の3歳から長嶋の絵日記がはじまった。当初は文字も絵も描けなかったが、母が描いた下絵に色をのせ、鉛筆をもつ手を握られ文字を書かされたりするうちに、自身で描けるようになった。身近な出来事を独自の視点で表現し、オイルパステルで彩られる絵日記は、23年以上創作され続け、毎日母によってブログで公開されている。

《日記:2024年7月14日》2024年・オイルパステル、鉛筆、日記帳



東本憲子・HIGASHIMOTO Noriko

所属・社会福祉法人ノーマライゼーション協会 西淡路希望の家
1983年生まれ。大阪府在住。

通所する西淡路希望の家の美術部の活動にて、月に3回制作活動を行なっている。以前はキャンバスや紙に絵を描いていたが、ある時それらの画材がない時に、支援員がプチプチ(気泡緩衝材)を渡すと、その突起を塗ってドット状の絵を描くようになった。カラフルに塗り分けられたプチプチのロールは25メートルにもおよび、最初は1本で7年ほどかかっていたが、2作目は40メートルを3年ほどで描きあげた。

《無題》2011-2018年・インク、気泡緩衝材 撮影：宮島径 提供：ポコラート全国公募展vol.6

ほんままい・HONMA Mai

所属・特定非営利活動法人希望の園 1984年生まれ。三重県在住。

22年前、希望の園に通い始めたことをきっかけに、油絵に触れるようになった。脳原生による運動機能障害により、ほんまの身体は自身のコントロールの範疇にない。しかし、ひとたびほんまが絵筆を取るとキャンバスには自由な線が広がり、色面は生き生きと発色する。絵筆を強く握り、毎日を新鮮に、近年のモチーフである「鳥」を色鮮やかに描き続けている。



《耳を澄ますインコ》2012年・油彩、キャンバス



森田博康・MORITA Hiroyasu

所属・社会福祉法人からし種の会 緑の牧場学園 1963年生まれ。長野県在住。

生活している福祉施設内の自室で、夜な夜な服を破り、翌朝その服を来て登場する。2017年、長野県で開催されている障害のある方々の公募展「ザワメキアート展」で入選し、その行為は彼の表現として認知された。しかし施設での生活をしていくにあたり、彼が服を破り続けることで起きる困りごともあり、いわゆる「問題行動」と「表現」の間で、森田は服を破り、続けている。

《タイトルなし》撮影：柳沢明夫